

会山行報告

通算山行NO	NO.282A	報告者	加藤 秀子
年 月 日	2004年4月11日(日・晴)	二万五千図 = 守門岳	
山 名	守門岳・大岳(1432m)		
体力度 = 普通 技術度 = 普通 道標 = なし 展望度 = 360° 自然 = プナ・巨大な雪庇			
正に山スキーの為にあるような山！！			
コースと タイム	起床4:00 - 出発5:25 - 長峰のコル(保久礼小屋)7:25 - キビタキ小屋8:10 - 頂上9:15~30 - 長峰10:20 - 二分11:30		
標 高 差	上り・二分350m~大岳1432m = 1082m(上り返し少しあり) 下り・同じ		
参 加 者	CL 後藤隆徳(57)、加藤秀子(55)、石塚千代(松戸・山翔会、途中まで)		

ひんやりとした冷気で目が覚めた。川沿いに止めた車の中は、ガラスで遮断されているにも関わらず、冷気が入り込む。もう朝なんだと窓の外を覗くと、あれっ？夕べは1台しかなかった車が数台に増えているよ。あれっ！もう準備をしてる人がいる。早いねえ～。うちんちも早く支度しなきゃあね・・・と慌てて起き出した。

外にブルーシートを広げて朝ご飯を済ませ、お決まりのトイレタイム。我が会ではトイレ問題に煩く(イヤッ！失言……。環境問題に熱心の間違いでした)、何処へ行くにも携帯トイレを持参します。他会から参加した石塚さんは、それを持っておらずCLがたんまり黄金を落とした。その携帯トイレを再利用で泣く泣く？使用していました。えらいッ！

で、お腹もスッキリしたところで出発。暫く林道を巻きながら行くと、広い畑に出、そこから樹林帯の中の登りに入った。調子の出ない石塚が、足の痛みを訴える。車のキーを渡し、無線は開けておくように言い残し先へ進む。大平まで登ると前方にクルリンとした無木立の山が見えてきた。一旦、僅かに下がり、急登をつめる。保久礼小屋で休憩し再び前進。痩せ尾根を抜け急登につく急登だ。昨日の疲れは何処へやら、高度をグングン稼ぎ頂上着。

先人2人組が、今から酒をたらふく飲むんだ・・・とツェルトを張っていた。左側は見事な雪庇が張り出して、今にも崩れ落ちんばかりである。展望は360°素晴らしい。いつも思うが雪のある時期に見る山岳風景は、墨絵の世界である。これをバックにCLが、肉離れから復帰した記念にと、とても嬉しそうな表情でカメラにおさまった。

さあ滑降開始だ。ツルリンとした大岳は正にスキーヤーの為にあるようだ。雪の状態も悪くない。いくぞぉ～！気焔を上げて滑り出した。CLも最初の出足を慎重にしていたが、大丈夫だと確認できたのか、だんだんと勢いが増してきた。何の難しさもなく林道の上

の畑についてしまった。ここから、林道歩きを短縮する為に近道をして石塚が待つ車へ到着。

余り物で、腹ごしらえを済ませ、二分を後にする。途中で見つけた フキノトウ を摘み、山際に群生する キクザキイチゲ カタクリ に歓声をあげるが、地元の人達には珍しくもないようだ。「そんなもん、ここら辺にはたんとある」…のだそう。